

【レビ記 13 章】『主よ。お心一つで、私をきよめることがおできになります。』イエス

は手を伸ばして、彼にさわり、『わたしの心だ。きよくなれ。』と言われた。」(マタイ 8:2,3)

熊本地震は 1 か月になりますはまだ終息を見られません。また周りに多くの重病人がいます。私たち自身も多くの問題があり、様々な思い煩いが山積みです。その中で神様は空の鳥を見なさい。野の花を見なさい。神がそれらを顧みて下さるから、私たちも何を食べるか、何を飲むのか、何を着るのかなどと言って心配するのはやめなさい。と語られています。まず、神の国とその義とをまず第 1 に求める者に、私たちに必要なすべてを与えて下さることが約束されています。素晴らしいことです。

そこで問題になって来るのが、私たちの罪の問題です。13,14 章はツアラアトについて記されていますが、これは罪の問題と非常に関係があります。この病が表われたら、祭司の所に行き、調べ、宣言し、隔離し、洗い、焼くという言葉が並べてあります。この病が特別記されてあるというのは、それがどんなに小さくてもパン種のように膨らんで、パン全体に影響を及ぼすからです。病が表われたら、まず祭司の所に行くというのは、イエス様のもとに行って、調べる必要があります。その為に細かい規定が成されていますが、私たちも罪の問題に関しては細かく気を配る必要があります。これくらいは誰でもしているから、、、と言って放っておくと、それは他の者にも感染し、重大な過ちを犯しかねないからです。罪を認め、告白して、赦されて、清められなければなりません。放っておくなら、感染して罪が罪を呼ぶので、隔離されなければなりません。「その住まいは宿営の外でなければならない。」と書かれています。「洗う」というのはイエス様の血できよめられることです。焼くというのは、聖霊の火でやくことを思い起こさせます。十字架という大きな犠牲を通してイエス様はらい病も私たちの罪をもきよめられたお方です。

日々罪を悔い改め、神と共に歩んでいることを確認する必要があります。同じ電車に乗っていても、「東京行き」と「高尾行き」では全く違います。神のみ前に悔い改めるべき罪を悔い改め、神の国とその義を求め、神のみ心を行ってゆきましょう。神に信頼し、神の言われることを成してゆきましょう。それは心配のない人生です。



Siloam

2016 年 5 月 15 日 No.893

(シロアム:遣わされた者 ヨハネ 9:7)

新年度の御言葉

ルカの福音書 3:2~4

「神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。」 2 節

「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。」 4 節

